

三島駅南口周辺開発 地下水対策検討委員会

第一回検討会

-H28東街区地質調査の概要-

平成29年3月23日(木)

目次

<u>1. 地質調査の目的</u>	・・・P2
<u>2. 地質調査地点の選定</u>	・・・P4
<u>3. 地質調査結果</u>	・・・P8

1. 地質調査の目的

1. 地質調査の目的

【地質調査の目的】

- 東街区の計画にあたり、当該地の基礎地盤となる、三島溶岩の分布範囲、層厚を把握を目的に、地質調査を実施した。
- 同時に地下水状況の把握を目的に、観測井戸を設置した。
- 補足調査として、表面波探査を計画した。



2. 地質調査地点の選定

2. 地質調査地点の選定

1 既存資料等の状況

- 対象地は、「平成5, 6年度三島駅前地区地下水等環境影響調査(以下、「三島市地下水調査」という。)」において調査が行われた。
- 東街区では、地表からの深さ4~5.5mでN値50以上の固い地盤として、三島溶岩=玄武岩層が分布し、支持層となる。
- 地下水位は、地下10mほどのところに存在しており、東街区周辺の調査地点をみますとほぼ平坦に広がっており、北から南又は北西から南東への流動がある。
- B-3については、現状でも井戸が存在することが確認され、調査を継続している。

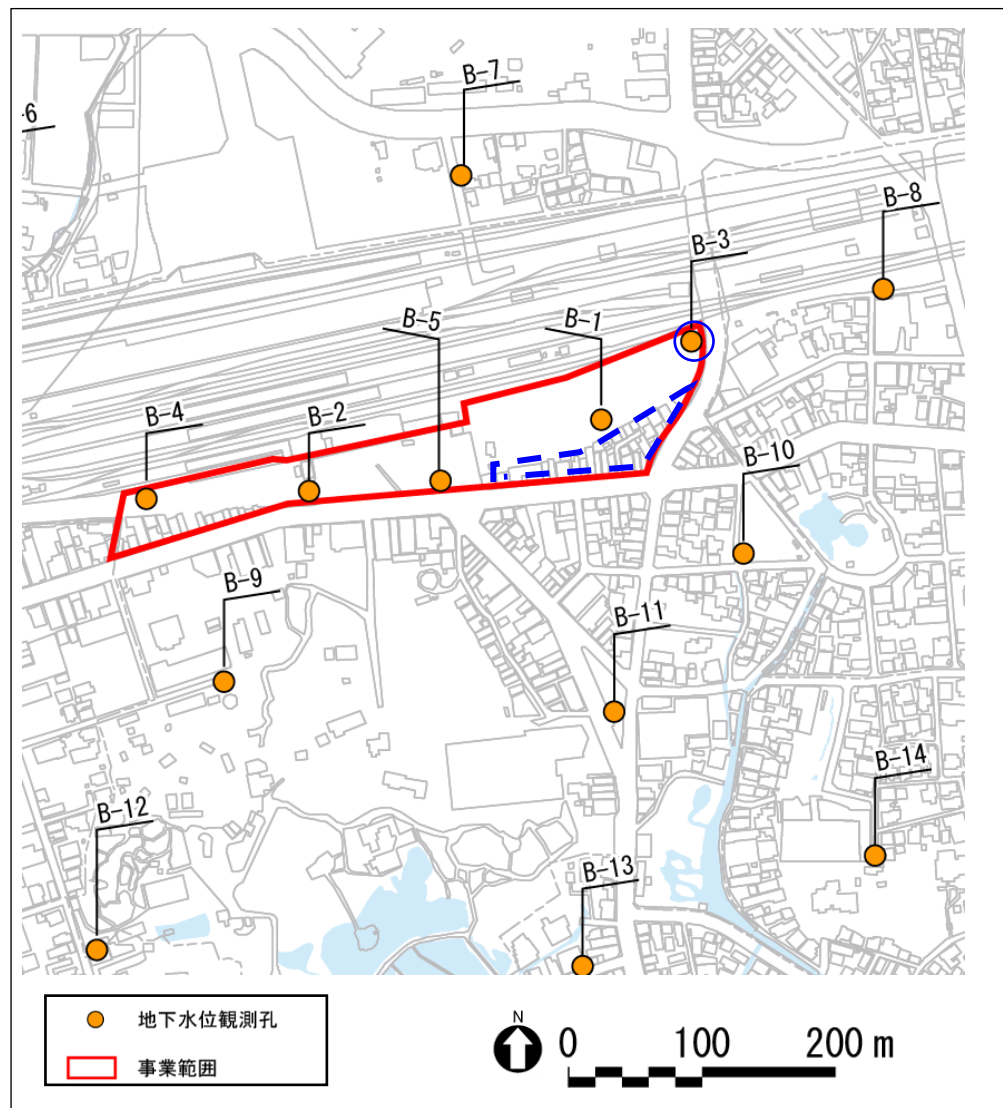


図 調査地点周辺の状況

2. 地質調査地点の選定

2 三島溶岩の分布状況

- 三島溶岩が構造物の基礎として、十分であることを把握するため、構造物の構築が予定され、溶岩の層厚が薄くなる箇所についてボーリング調査を実施した。

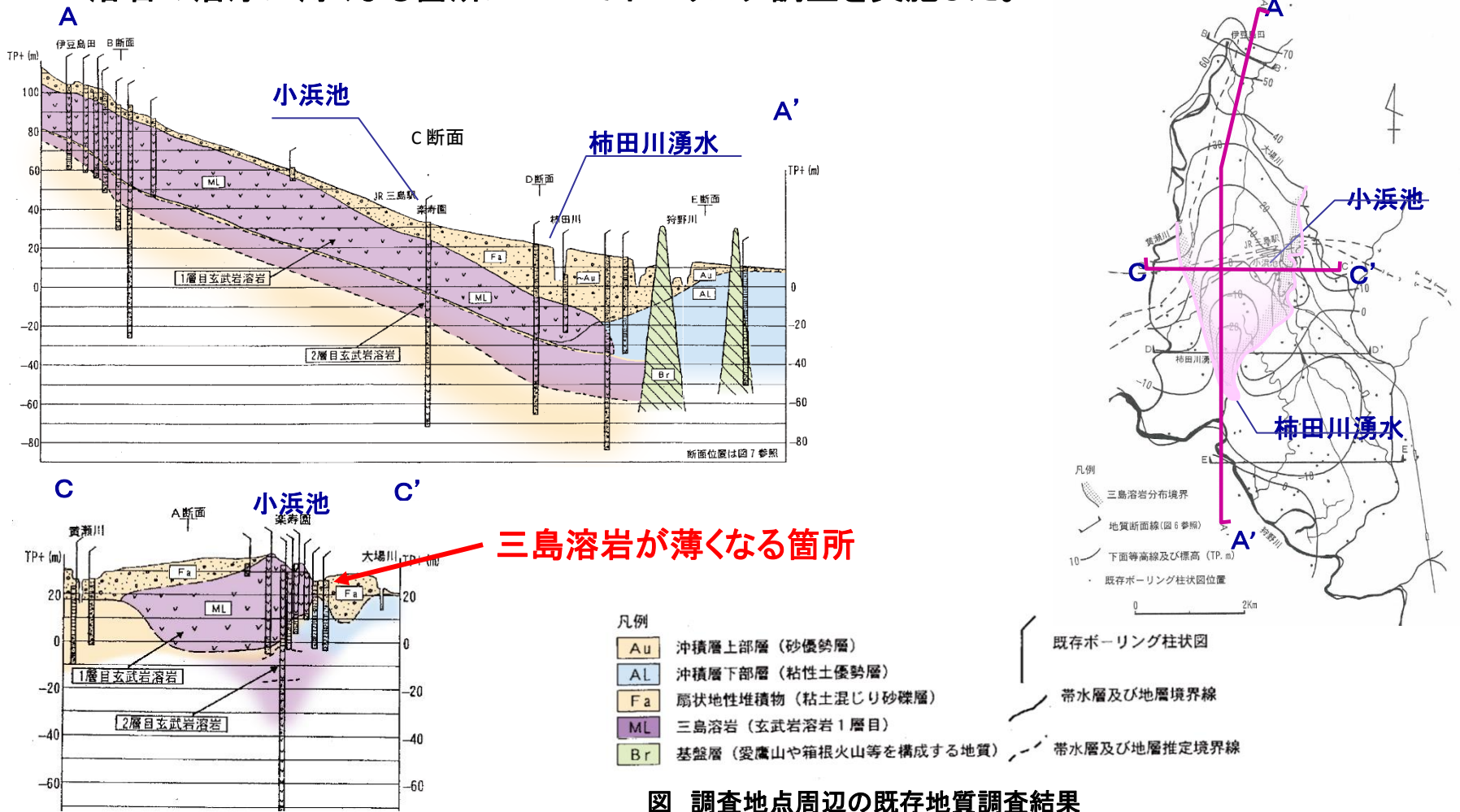


図 調査地点周辺の既存地質調査結果

2. 地質調査地点の選定

3 調査地点の選定

- ・ 既存のボーリング地点及び三島溶岩の分布状況を踏まえて、調査地点を選定した。
- ・ ボーリング調査地点を補完するように、表面波探査の調査地点を選定した。

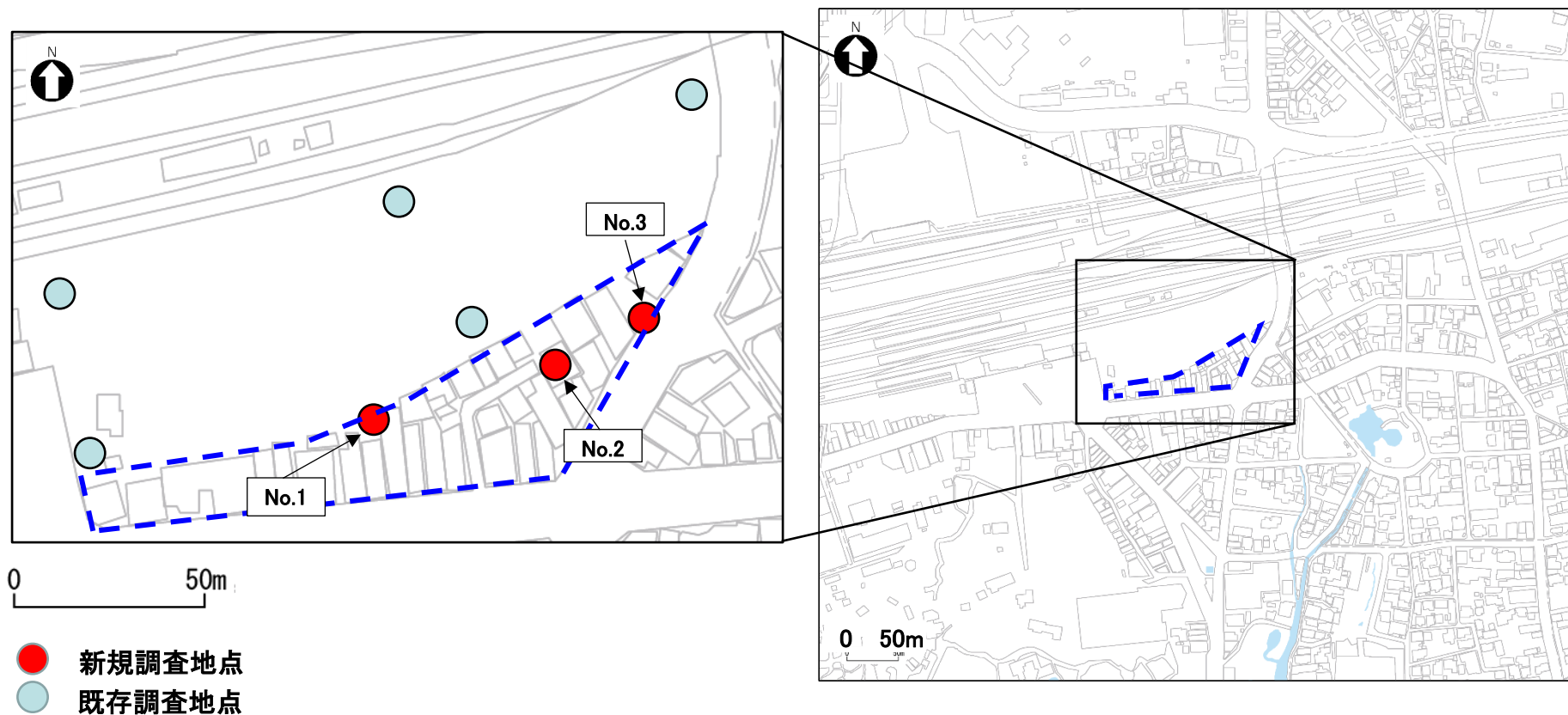
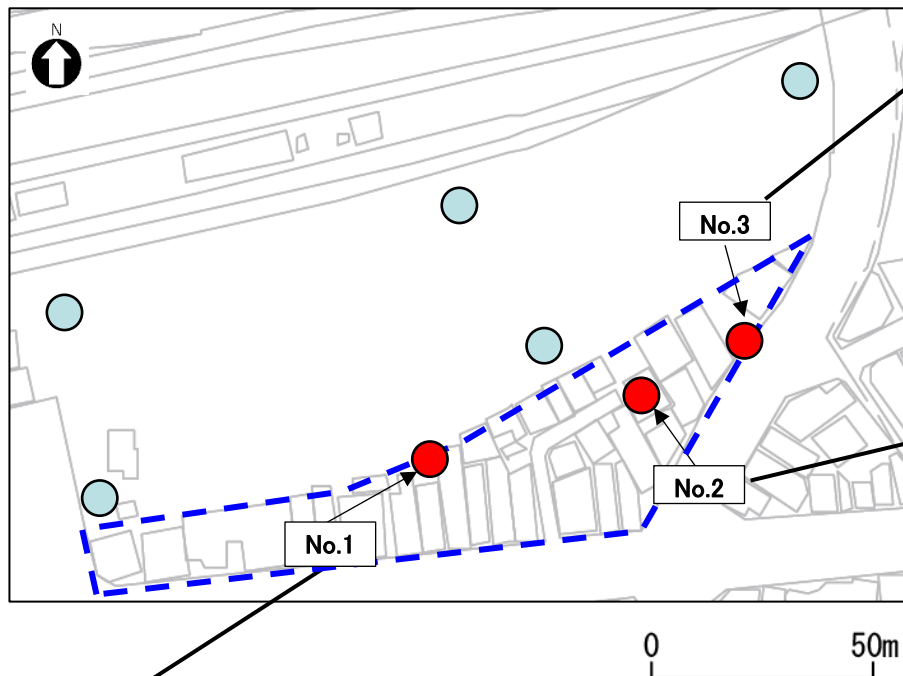


図 調査地点図

3. 地質調査結果

3. 地質調査結果

(1)ボーリング調査結果



- No.1は、表層より三島溶岩が深度11.5mまで分布し、その下にローム層(火山灰質粘土)が分布する。

- No.3は、表層より三島溶岩が深度9.2mまで分布し、その下にローム層(火山灰質粘土)が分布する。
- 既存資料と同様に東に向かうにつれて、三島溶岩の層厚が薄くなることを確認した。

- No.2は、コア写真に示すとおり、表層より三島溶岩が深度11.9mまで分布し、その下にローム層(火山灰質粘土)が分布する。



* 地質調査結果等は、平成5、6年に実施したものと整合が取れている。

3. 地質調査結果

(2)ボーリング調査状況、地下水調査箇所

- ボーリング調査により、三島溶岩層内及びその下位のローム層内にも地下水が確認された。このため、それぞれの地層にストレーナー設置した観測井戸を設置し、地下水の状況を測定することとした。
- 観測井戸は、すでに既存の井戸が多くあることから、全体配置を踏まえて、No.2の調査地点に設置した。

観測井戸を設置した地点



No.1の掘削状況



No.2の掘削状況



No.3の掘削状況

3. 地質調査結果

(3) 表面波探査の予定

- ・ 東街区の計画においては、三島溶岩の分布と層厚の確認が重要となる。
- ・ ボーリング調査を補う形で、表面波探査の調査地点を配置し、調査を実施する。
- ・ 調査地点は、三島溶岩が分布しない箇所においても実施する。

